

◎2万3000人が挑戦＝第2回検定、初の「1級」も実施



正しい日本語の使い方を身に付けてもらおうと、10月26、27の両日、全国一斉に「日本語検定」（略称・語検）の第2回検定の受検が行われました。全国93都市で個人受検と団体受検合わせて2万3000人以上の申し込みがありました。

「語検」は、敬語や文法、語彙（ごい）など、日本語を正しく使うことに関わる諸領域の能力を身に付けてもらうのが目的です。1級から6級まであり、小学生から社会人まで幅広い年齢層を対象としています。今回から、2級合格者を対象とする1級の実施がスタートし、全国で969人が難問に挑戦しました。検定結果は、12月上旬にホームページ上で合否速報が行われ、同月中旬ごろには検定結果を記した個人カルテや認定証が発送される予定です。

受検申込者数は、1級（社会人上級）969人、2級（社会人中級・大学卒業程度）6243人、3級（社会人初級・高校卒業程度）8195人、4級（中学校卒業程度）3545人、5級（小学校卒業程度）2585人、6級（小学校4～5年程度）1527人。最年長者は88歳、最年少者は6歳でした。

◇「いつも目標を」「何か資格を」と、さまざまな受検動機

台風の影響で朝から雨が降りしきる富山市千歳町の富山教育会館。午前の検定開始1時間半前には一番乗りの受検者が到着。その後、ぬかるんだ道を受検者が次々と集まりました。富山県内では団体受検と合わせておよそ200人が受検しました。

張りつめた雰囲気の中、「では始めて下さい」と監督官の開始の合図で、受検者は一斉に問題・解答用紙を開き、静かな会場に鉛筆を走らせる音が響きました。

「趣味でエッセイや童話を書いている」という60歳代の主婦は、既に漢字検定1級の資格を持っていると話しました。「いつも目標を持って生きる。そういう勢いが大切なね」と笑い、初めての語検受検となる2級の問題について「あまり難しくなかった」と自信をのぞかせました。最近の乱れた日本語については「大嫌い」ときっぱり。「美しい日本語、きれいな日本語を大切にしたい。地方の文化である方言はいいと思いますが、変な日本語を聞くと『アホかいな』と思ってしまう」そうです。

元新聞記者の30歳代の主婦は「新しい仕事に就くため、一定の学力があることを示すには何か資格を持つのが大事」と考えて第1回語検の2級に合格、そして今回の1級に臨みました。検定後に感想を聞くと、「難しかったですね。新聞表記は2級レベルと思いますが、1級はそれをかなり超えています」とのことでした。「たとえ誤用でも最近ではこちらの言葉の方が普通に使われる、ということもありますね。受け入れざるを得ないこともあります。ただ、今回の問題にも出題されていましたが、過去の使い方を知れば納得できることもあります」と話しました。



◇「次回もチャレンジしたい」

一方、東京の8つある会場の一つ、港区のNTT麻布セミナーハウスでは、台風接近のため時間とともに風雨が強まる中、およそ900人が受検しました。

1級の受検者はおよそ70人。検定前にはロビーなどで語検の問題集を食い入るように見つめたり、背伸びをするなどして緊張をほぐしたりする姿が見られました。

60歳代の男性は、語検の問題集が書き込みで一杯で、受検準備も万全の様子。受検後は「難しくはなかった」と自信満々でした。

小学生の男児と一緒に親子受検した30歳代の主婦は、書店の語検ポスターを見て受検を申し込んだといます。「難しかったが、次回もチャレンジして級を上げたい。日本語は大切なことだから楽しんで学びたい」と意気込んでいました。



◇来年の語検は6月と11月に予定

第3回目の検定は、来年6月20日（金）、21日（土）に準会場、21日に一般会場、第4回目は、11月7日（金）、9日（日）に準会場、9日に一般会場での実施がそれぞれ予定されています。

回	検定実施日		申し込み期間
3	一般会場	平成20年6月21日(土)	平成20年3月1日(土) ～5月12日(月)
	準会場	平成20年6月20日(金)・21日(土)	
4	一般会場	平成20年11月9日(日)	平成20年8月1日(金) ～10月1日(水)
	準会場	平成20年11月7日(金)・9日(日)	

日本語が好きだから

